



と い で の

校訓 「自立・創造・敬愛」



高岡市立戸出東部小学校
令和7年7月1日発行

「文章を正しく読む力」

研究主任

1学期も残すところあと1か月となり、いよいよ学期のまとめの時期となりました。

今年度、戸出東部小学校では、「一人一人が課題をもち、関わり合いながら考えを深める児童の育成」を目指して研修を深め、児童一人一人に確かな学力が身に付くようにしていきたいと考えています。そのためには、考えの形成を重視する言語活動の充実が大切になってきます。今回は、南雲ゆりかさんの著書『文章を正しく読む力を育てる本』を基に、子どもたちの読む力を育てる方法について考えてみたいと思います。

一見、「正しく読む」ことなど簡単にできそうに思えます。しかし、次のようなケースがよく見られます。

- ・フィードバックに頼った感覚的な読み方をしたり、ディテールを拾わず、自分がイメージしたことに勝手に当てはめて読んだりする。
- ・内容が分かっておらず、「何がどうしたの?」という問いに答えられない。

授業中や宿題で、すらすら読んでいるようにみえても、内容はよく分かっていなかったり、曖昧な読み方をしていたりすることが多いのです。内容がよく分からないまま問題を解き続けても、国語の成績は上がりません。文章を正しく読む力をつけることが、国語の学習の出発点になると著者は述べています。ここで読む力をチェックするポイントを挙げます。

- ・文章を一字一句飛ばさずに読めているか? ・言葉の係り受けを意識しているか?
- ・「語句のまとまり」をつかんでいるか? ・「それ」「この」などが指す内容が分かっているか?

文章を正しく読むことで初めて確かな知識が身に付いてくるはずです。音読の際は、意識して聞いていただければと思います。

参考文献 南雲ゆりか (2025)『小学生のための文章を正しく読む力を育てる本』すばる舎出版

充実した宿泊学習

5学年主任

5年生18名は、6月10・11日に初めての宿泊学習に行ってきました。

活動準備のときから、わくわくどきどきが止まりませんでした。

宿泊先の砺波青少年自然の家では、規律正しく集団生活することの大切さを学びました。1日目のオリエンテーリングでは、チェックポイントを目指して班の友達とコースを回りました。2日目の野外炊飯では、火起こし・米とぎ・野菜切りなどにも挑戦し、おいしいカレーライスを作りました。活動した後は、充実感・達成感を十分に味わうことができました様子でした。また、ベッドメイキング、食事、入浴等、どの活動もきびきびと行動している姿、友達と仲良く協力している姿、思いっきり楽しんで活動している姿がとても輝いて見えました。仲間との絆がぐんと深まった二日間でした。

この体験を大いに生かし、さらに、いろいろなことに挑戦し、これからの学校生活をより充実したものにしていきたいです。

